

中学校第2学年
保健体育（保健分野）



**MEXCBT（メクビット）による自転車に乗って車道を走る動画を
活用して自他の危険を予測し、回避する方法を考える。**

中学校第2学年 保健体育科（保健分野） 「交通事故や自然災害などによる傷害の防止」

■単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止について、理解を深めることができるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

■単元の概要

交通事故による傷害を適切に回避するために、事例をもとに傷害のリスクの程度を判断しながら、危険を予測し、その回避の方法を考えて表現する活動を行う。

■単元の指導計画（5時間）

第1次

「交通事故による傷害の防止」

- ・交通事故による傷害の要因について理解する。
- ・交通事故による傷害が発生するリスクを考える活動を通して、交通事故の要因について整理する。
- ・交通事故による傷害を引き起こす危険を予測し、回避する方法を考えて整理する。

第2次

「自然災害などによる傷害の防止」

- ・自然災害による傷害の発生の要因とその予防について調べて整理する。
- ・自然災害による傷害の危険を予測するために必要な行動や環境などについて理解し、回避のために取り組むべき対策についてまとめる。

■単元の概要

交通事故による傷害の要因について課題を発見するとともに、傷害は人的要因と環境要因が関わって発生することを理解する。

交通事故の傷害が発生するリスクの程度を考える活動を通して、その根拠を明確にするとともに、自転車に乗って車道を走る動画も活用して、危険を予測し、回避する方法を考えて表現する。

自然災害による傷害の発生の要因とその防止について、人的要因と環境要因の視点でまとめるとともに、自他の課題を発見し、取り組むべき対策について考える。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第1次）

【学習活動の場面】

生徒への意識調査の結果等を踏まえ、「交通事故による傷害を適切に回避するためにはどのようなことが必要か」という学習課題を設定した。その際、**MEXCBTによる動画を活用して、交通事故の危険を予測し、回避の方法を考える場面を設けた。**

【子供の「深い学び」の姿】

◆自転車に乗って車道を走る動画を繰り返し視聴

生徒はそれぞれの端末で、MEXCBTによる自転車に乗って車道を走る動画を視聴しながら、交通事故に遭遇する危険を予測し、回避の方法をテキストに打ち込んだ。

◆条件が変化する事例から、リスクの程度を判断

その後、くじによって条件が変化する事例を取り扱い、人的要因（焦っている、スマホを操作中、等）、環境要因（雨が降っている、人が多い時間帯、等）に加え、車両の要因（大型トラックが右左折、等）の3つの条件を生徒がランダムに選択しながら、都度リスクの程度を数値化していくことで、根拠をもって傷害リスクの高低やその理由を考え、伝え合うことができた。

◆再度、自転車に乗って車道を走る動画を視聴

交通環境の整備等に関することについても理解した後、再度、MEXCBTによる自転車に乗って車道を走る動画を視聴し、危険の予測や回避の方法について、新たに気付いたことを端末に追記する姿が見られた。

【当該指導での「深い学び」】

上記の指導において、生徒が常に交通事故が発生する要因（概念）や、防止のための原則に着目しながら、「**交通事故による傷害のリスクの軽減**」といった**保健の見方・考え方**を豊かに働かせて思考、判断し、表現することができるようにした。さらに、**再度、自転車に乗って車道を走る動画を視聴して気付いたことを追記する活動により、生徒は自らの思考の再構築するとともに、学びの深まりを実感できた。**

【活用したソフトや機能】 MEXCBT

■指導上の工夫とICTの利活用

①動画を自分のペースで、繰り返し視聴しながら、危険の予測や回避の方法を考え、表現できるようにする。

* 端末で必要に応じて動画を繰り返し視聴しながら、交通事故の危険を予測したり、回避の方法を考えたりしたことを、すぐにテキストで打ち込めるようにすることで、生徒が思考、判断したことを、即時的に表現することが可能になる。

②傷害が発生するリスクの程度を数値化することで、その理由に着目できるようにする。

* 交通事故による傷害のリスクの程度を数値化する事例により、人的要因、環境要因に着目しながら判断の根拠を明らかにしていく協働的な学びを促すことができる。

③再度、動画を視聴し追記する活動を位置付ける。

* 学んだことを生かし、自らの思考を再構築しながら、気付いたことを追記する活動により、学びの深まりを実感することができる。



学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第2章 第9節 保健体育

第2の保健分野の2

(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること

第3の1の(1)

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。